

活動報告書

報告者氏名：水野 吉丈

所属：東京都立江戸川特別支援学校 記録日：平成 26 年 2 月 21 日

【本校の取り組みについて】

本校では、継続のアピールで表明した三点について研究をすすめておりましたが、訪問指導での実践を加えて以下の四点について報告いたします。

- 1 児童・生徒の発達段階に応じて有効なアプリについての検証（主に中学部生徒を対象に検証を進める）
- 2 高等部 1 年 C さんについての実践
- 3 中学部 3 年 A さんについての実践
- 4 高等部 3 年 B さんについての実践

以上の四点について報告を行います。

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年 中学部
- ・ 障害名 脳性麻痺 筋萎縮性障害等の肢体障害 知的障害 自閉的傾向
- ・ 障害と困難の内容

自立活動を主とする教育課程：国語・算数などの教科内容を前提に、生徒の実態に応じた指導を行う。指導内容は自立活動を主とした視点で構成される。知的にも身体機能的にも障害が重く、学習活動全体にさまざまな配慮が必要である。医療的なケアが必要な事例も少なくない。

知的代替の教育課程：生徒の実態に応じて、教科内容を工夫して行う課程：個々に応じた学習内容の配慮が必要である。同時に肢体不自由に対応した機器を工夫する必要がある。

準ずる教育課程：生徒の生活年齢に即した教科指導を行う課程：普通校と同じ教育内容を指導するが、個々の障害に配慮が必要である。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい
中学部の生徒全体の指導内容を通して、それぞれの課程にあった iPad の活用方法を具体的なアプリを例に発達段階に応じて系統的に使用できる方法を検証する。今学期は主に重度重複障害のある生徒の事例を収集した。
- ・ 実施期間 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月
- ・ 実施者 水野吉丈を中心とした中学部の教員
- ・ 実施者と対象群の関係 実施者は本校の iPad の研究統括で、中学部の学級担任、準ずる教育課程及び知的代替の教育課程の学習グループの指導を担当している。実施者を中心に、中学部の様々な学習グループでの使用実態から、発達段階に応じた iPad の使用方法について検証を行う。また、高等部訪問担当の教員の依頼により、iPad の使用についての協力を行い、研究報告に加えることになった。また、実施者が指導応援などで小学部に行った時に、「魔法のランプ最終報告書 1 別紙」を基準に iPad のアプリの使用の実際を確認した。

【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・ 対象児（群）の事前の状況

iPad を使用したことが無い生徒たちで、実際にはどのような反応が見られるかわからない状況。

- ・ 活動の具体的内容

別紙にまとめた iPad の発達段階別による使用の有効性の検証

- ・ 対象児（群）の事後の変化

別紙の内容を基準に、それぞれの教育課程の生徒にアプリを利用すると有意な反応や、iPad に対して興味・関心を示すことがわかった。

iPad を使用したことが無い小学部の学習グループに、ピンポイントで指導応援に入ることがあった。児童の状態は学習グループの発達段階分け程度の情報しかない状況でも、別紙の表に基づいてアプリを試すと、ほとんどの児童が興味を示し、iPad のアプリに対して積極的な関わりを見せることが確認できた。ある程度、継続して指導応援に入った学習グループでは、児童の一人は私の顔を見ると「iPad が来た」とわかり、「触らせてほしい」と表情で訴えることもあった。当初は、教員が手をとって触らせる形であったが、iPad を児童の見えるところに固定すると、自分から手を伸ばして触り続ける様子も確認できた。

教員と児童・生徒の関係によること無く、児童・生徒の発達段階に応じた適切なアプリを使用すると、一定の効果が得られることが確認できた。

【報告者の気づきとエビデンス】

- ・ 主観的気づき

三年間継続して使用を行ってきているが、肢体不自由特別支援学校のほとんどの児童・生徒が興味・関心を示したり、有意な反応を喚起するアプリが存在する。

- ・ エビデンス（具体的数値など）

具体的には「魔法のランプ最終報告書 1 別紙」を参照。

校内の指導体制の関係で、指導応援に入って初めて出会った児童が、初めて iPad に触れるような場合でも、別紙の表に基づいて適切なアプリを使用した場合でも、対象児童は iPad に対して興味・関心を示した。

- ・ その他エピソード（画像などを含めて）

今年度、伊藤忠財団の協力で iPad、iPod touch と VOD を利用した「聞く読書」の取り組みを行っている。希望する家庭には、家庭の iPad に伊藤忠財団の作成したデータもインストールする支援も行った。それぞれの貸与先で児童・生徒がディジーのデータを集中して聞いている様子が報告されている。

本校が魔法のプロジェクトに参加していることから、保護者からの要望で iPad の使用についての講習会を昨年夏に実施した。70 人近い方が受講した。

本校の特別支援教育のセンター校的な役割として、学区内の普通中学校に在籍している生徒に対しての、ICT 機器の支援を行った。その時に iPad のスイッチコントロールを利用する方法と、通常の Bluetooth キーボードを外部スイッチにするための治具を提供した。また、通常の Bluetooth キーボードをビッグマックのような外部スイッチに接続するための改造方法も、校内で行っている AAC 研究会において他校の教員に伝える活動を行った。



キーボードを使用可能にする治具